

はじめに

文部科学省が毎年発表している「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」での不登校者数のグラフを見ると、令和に入ってからグラフの傾きが急になっており、令和6年度静岡県为国公立・政令市を含む不登校児童生徒の割合は、小学校 3.0%、中学校 7.7%、高等学校（全日制）1.1%・（定時制）21.3%となっています。近年の急激な増加は、現在社会問題となっています。

教育相談課にも、不登校になった子どもが相談に多く訪れます。話しやすいことは語ってくれますが、不登校の原因をそれとなく探っても、それについてはなかなか語ってはくれません。本人が不安や苦痛を感じていても、その原因や理由は分からない…ということが多いのです。また、自分の気持ちや感情を言葉で語る事ができるのならば、そもそも不登校にならなかったのでは、とも思います。よって、本人の抱える困難さに迫ることは、とても難しいことです。だからこそ、様々な視点からのアセスメントや支援、多様な居場所が必要ですし、早い段階での支援が必要だと痛感しています。

今回、ガイドブック作成にあたり、多くの関係機関に御協力をいただきました。各機関の担当の方から「不登校になる前から来てもらえると、できることの幅が広がるのですが…。」「先生方に私たちの活動を知ってもらいたい。」との声が多く聞かれました。不登校になる前に、子どもたちは何らかのサインを出しているものです。その段階からの支援やノウハウを持っている関係機関が多くあります。

私たちが、まずそれらの関係機関について知ることから始めてみませんか。このガイドブックが、悩みや困難を抱えた際に、お互いに助けたり助けられたりしやすい手立てや環境作りの一助になればと思います。